

2022 年度（2022年8月－2023年7月）
観光学部留学プログラム評価アンケート結果

玉川大学観光学部

玉川大学観光学部では、学生が異文化体験を通して国際社会で活躍できる英語力と国際理解力を修得できるよう「観光学部留学プログラム」の終了を卒業要件の一つとしています。学生は同プログラムに参加し、原則として第4セメスターから第5セメスターまでの1年間をオーストラリアの提携大学で学ぶことになります。

留学の前半は、計20週間（5週間×4）、大学付属の語学学校において英語力を4技能（speaking, listening, reading, writing）にわたってしっかりと身につけます。所定のコースを修了し語学学校から十分な英語力を修得できたと認定された学生は、後半の15週間を大学の学士課程（Study Abroad または Bachelor と呼ばれるコース）において、観光・ホスピタリティーをはじめとした学士課程の授業を受講することになります。留学前半の終了時に所定のコースを修了できなかった学生は、後半も語学学校で英語力の向上に努めます。また、留学期間中に実施される海外インターンシップは、学生にとって貴重な学びの機会となります。この約1か月にわたる異文化社会での就業体験は、学生の社会人基礎力を向上させるように設計されています。

留学プログラムにおいて、語学学校や大学での学修、海外インターンシップという具体的な機会以上に観光学部で重視しているのは、長期間海外で暮らすという異文化体験です。海外で暮らすことで異文化がどのようなものなのか理解し、日々の生活の中でその異文化へ適応していく。そうした行為によって、これまでは空気のように見えなかった自分の背後にある日本の文化を意識したり、文化の比較ができるようになったりするはずです。そうした経験が将来、観光・ホスピタリティ産業で活躍するうえで、貴重な経験となると考えています。

2022年度に出発した学生を対象にした本アンケートは、学生の留学に対する満足や成果だけでなく、プログラムの反省すべき点や改善すべき点も率直に表現しています。このアンケートを参考に、本学部では、今後も学習成果が高く、学生の満足も高い留学プログラムの実現に向けて参ります。

コロナ禍の中で2020年度は現地への渡航が不可能となり、学生は日本にとどまったままで留学プログラムをオンラインで受講しました。2021年度もオンラインでの受講で始まりましたが、途中、現地への渡航が解禁され、後半に現地への留学が可能となりました。2022年度は、久しぶりにプログラムの全期間を学生がオーストラリアで過ごすことができた記念すべき年でした。現地渡航を伴う留学プログラムの再開と支援にご尽力いただいた方々、関係機関の皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

2024年4月9日
観光学部国際教育担当

1 調査方法

2022 年 8 月から 1 年間（第 4・第 5 セメスター）オーストラリアへ留学していた学生は、2023 年 7 月 29 日の留学プログラム終了ガイダンスまでに全員が帰国した。その 77 名を対象に、2024 年 1 月に Microsoft Forms を使って留学プログラム評価アンケートを実施した。回収率は 91%（77 人中 70 人が回答）であった。結果の詳細は、付録として本報告書の最後に掲載している。

なお、留学先大学はビクトリア州メルボルンにある Victoria University と Deakin University、クイーンズランド州ゴールドコーストにある Griffith University の 3 校であった。大学別の派遣人数は下表のとおりである。

大学名	派遣人数	回答人数
Victoria University	21	19
Deakin University	34	31
Griffith University	22	20
計	77	70

2 各設問の結果分析

2.1 留学プログラム全体にどの程度満足していますか？

「とても満足」「満足」と回答した学生が 78%（55 人）であり、四分の 3 を超える学生が留学プログラム全体に満足している。

2.2 留学プログラムのうち、主に語学学校と大学での学修にどの程度満足していますか？

「とても満足」「満足」と回答した学生が 71%（50 人）であり、7 割を超える学生が留学プログラムの最大の体験である留学先大学での学修に満足している。

2.3 留学プログラムのうち、インターンシップにどの程度満足していますか？

「とても満足」「満足」と回答した学生が 57%（40 人）であり、過半数の学生が留学プログラム中の海外インターンシップに満足している。前問に比べて回答が低くなっている理由として、学生が社会人基礎力を身につけ強化するという海外インターンシップの目的を十分に理解していなかったのではないかと考えられる。この点を反省し、次期の留学プログラムではこの点の周知に関して改善を行った。

2.4 留学プログラムのうち、オーストラリア滞在中の異文化体験にどの程度満足していますか？

「とても満足」「満足」と回答した学生が 90%（63 人）であり、ほとんどの学生が異文化体験としてのオーストラリア滞在中に満足している。帰国後の学生との会話からも、日本とは異なる価値観やライフスタイルの中での生活に適応し、これまでとは異なった環境での生活を楽しんだことがよく分かった。

2.5 自分が目標とした学修成果を全体として達成したと思いますか？

「非常に達成した」「達成した」と回答した学生が 74% (52 人) であり、7 割を超える学生が自分の目標とした学修成果を全体として達成したと思っている。この知覚が、今後の人生に対する効力感や自信につながることを大いに期待したい。

2.6 自分が目標とした学修成果のうち、英語運用力についての目標を達成したと思いますか？

「非常に達成した」「達成した」と回答した学生が 69% (48 人) であり、約 7 割の学生が自分の目標とした英語運用力を身につけたと思っている。例年の傾向として、生活の中で会話力は自然と身につくが、書く力 (writing) と読む力 (reading) の伸長は積極的かつ自律的に学修できた学生とそうでない学生に差がでてしまう。この傾向にどのように対応していくかが、帰国後の英語教育の課題となる。

2.7 自分が目標とした学修成果のうち、観光・ツーリズムの専門知識についての目標を達成したと思いますか？ なお、観光・ツーリズムの授業を履修しなかった学生は「観光・ツーリズムに関連する授業を履修しなかった」を選択してください。

「非常に達成した」「達成した」と回答した学生が 24% (17 人) であり、四分の 1 にとどまった。これは、後半も語学学校にとどまった学生が 9 人、Deakin University の学士課程授業には観光・ツーリズムに関連する授業が極めて少ないことが理由である。

2.8 玉川大学観光学部への入学を検討している後輩や知人に対して、この留学プログラムを理由に薦める可能性はどのくらいありますか？

留学プログラムを理由とした本学部への推奨度合を 10 段階で評価してもらった。平均は 7.5 で、学生の四分の 1 以上が 10 または 9 と評価した。

2.9 留学プログラム（特にインターンシップ）において社会人基礎力（12 の能力要素）は身につきましたか。

多くの能力について、7 割以上の学生が「非常に身についた」「どちらかと言えば身についた」と回答した。海外インターンシップが学生の社会人基礎力を高める役割を概ね果たしたと言えるだろう。特に、実行力 (88.6%)、柔軟性 (85.8%)、主体性、状況把握力 (ともに 84.3%) などが身についたと学生は知覚している。一方、創造力、ストレスコントロール力 (ともに 65.7%)、発信力 (67.1%) は 7 割を下回った。就業体験とはいえ、そこで自らが積極的に関わる意識を持たない限り主体性は育まれないことは当然である。そうしたことに気づけず、「やらされ感」だけを持って貴重なインターンシップの機会を遣り過ごした学生がいたのも事実である。

2.10 留学プログラムにおいて異文化適応力は身につきましたか？

異文化適応のすべての要素について、8 割以上の学生が「非常に身についた」「どちらかと言えば身についた」と回答した。帰国後に表現が難しい能力であるかもしれないが、本プログラムの大きな成果と言える。

2.11 留学プログラムにおいて英語運用力（4 技能）は向上しましたか？

聴く力 (listening) について、「非常に向上した」「どちらかと言えば向上した」と回答した学生が 97% おり、4 技能のうちで最も向上を実感できたようである。話す力 (speaking) と書く力 (writing) についても、それぞれ 85% 以上の学生が向上したと知覚しているが、読む力

(reading)については向上を実感できた学生が67%にとどまり、かつ「どちらかと言えば向上しなかった」と回答した学生が11%と他の3技能よりも明らかに多かった。この差が、帰国後のTOEICのスコアの伸びに関係する可能性もある。

2.12 次の文についてどの程度あてはまりますか？

留学生生活は充実していた

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が87%であり、ほとんどの学生にとっては「充実していた」と思える留学であった。

留学プログラムは自分の将来やキャリアを考える上で役立った

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が94%であった。これも留学プログラムの大きな成果である。

留学プログラムによって、帰国後にどのような専門科目やゼミを選べばよいか理解できた

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が60%であった。

予習と復習を十分に行って授業に出席していた

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が76%であった。地道な努力を継続できる学生が一方、少数ながら、漫然として授業に出席していた学生がいたようである。

留学先大学は手続等で十分なサポートをしてくれた

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が53%であった一方、19%がそうではなかったと答えている。留学先大学は多数の留学生を恒常的に受け入れており、十分なサポート体制が整っている。それでも2割の学生が不満に思っている背景には、日本での「上げ膳、据え膳」に近いサポート体制との比較があるのではないかと考えられる。

ホストファミリーは留学にふさわしい生活環境を用意してくれた

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が71%であった。

授業が難しかった

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が76%であった。

キャンパスライフは充実していた

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が77%であった。

留学を終えて達成感がある

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が87%であった。このことは、留学プログラムが、今後、学生たちが学業や就職活動に対して自信や希望を持ち、前向きに困難を乗り越えようとする気持ちの源泉になることを期待させる。しかし、学生の中には、この達成感がゆえに留学で「燃え尽き」、帰国後に気持ちの切り替えがなかなかできない者もあり、その点を教員は注意する必要がある。

留学を終えて自分に自信がついた

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が92%であった。本プログラムで得られた効力感を大切にして、学生が様々なことに積極的に取り組んでいくことを期待したい。

日々の生活態度が改善した

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が73%であった。多くの学生が、これまでに以上に生産的で健康的な生活の習慣を身につけた。

玉川大学での学修意欲が向上した

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が 63%であった。

秋学期を終えて、留学が自分を変えたと思うことがある

「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が 87%であった。このアンケートは、帰国直後ではなく、帰国後 1 セメスターを終えた時点で実施した。ほとんどの学生にとって、留学が彼ら彼女らの人生に影響を与え続けている、言い換えれば、留学の成果あるいは効果が継続していると言える。

2.13 留学プログラムはあなたの期待に応えられましたか？

76%（53 人）が「はい」と回答した。概ね、学生が期待したとおりの留学プログラムであったことは学生にとって喜ばしいことだが、それ以上に、彼ら彼女らを送り出した教員にとって安堵できる数字と言えるかもしれない。

2.14 自由記述

留学中の体験について、

- ・ 人生で一番濃い時間を過ごせた気がします。というのも、勉強を継続する力や自分から行動する力が非常に身についた 1 年間でした。
- ・ 留学プログラム全体を通して非常に自分の成長に繋がる良い経験をすることができました。
- ・ 自分が思っている以上に英語のスキルが身についていて、今後の自信にも繋がった。
- ・ ホストファミリーとの交流が異文化理解力と語学力の向上に大きく関係したと思いました。

留学準備のための授業科目「留学準備セミナー」について、

- ・ 留学準備セミナーは非常に有益だった
- ・ 先輩の話はすごく貴重で助かりました！

などの前向きなコメントがあった。他方、語学学校、インターンシップなどに関する不満の記述も少なくなかった。語学学校については「日本人が多かった」という指摘だ。留学開始が 8 月であるため短期の語学留学で渡航する日本人学生のピークシーズンであることや、コロナ禍直後だったことで他国からの留学生数が以前の水準まで回復していなかったことも考えられる。また、語学学校もクラスのレベルが上がるにつれて日本人比率は急激に減っていく。インターンシップに対する不満の多くは、2.3 の分析において述べたように目的の誤解から生じていると考えている。その他も日本と同様のサポート体制を期待しているところに、不満の原因があるように見受けられる。留学準備から留学中の生活にいたるまで「何かをしてもらえる」という発想から抜け出せない学生が（多くはないだろうが）いる。留学準備セミナーなど渡航までの準備期間に教員は、学生が留学を「我がごと」と捉え自律的に準備や現地での生活ができるようこれまで以上に働きかけていく必要がある。

【付録】 留学プログラム評価アンケート結果

1. 留学先大学を選んでください。

● Victoria University	19
● Deakin University	31
● Griffith University	20



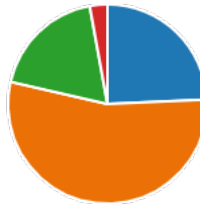
2. プログラム終了時の課程はどちらでしたか

● ELICOS（語学学校）	9
● Study Abroad, Bachelor or Diplo...	61



3. 留学プログラム全体にどの程度満足していますか？

● とても満足	17
● 満足	38
● 満足でも不満でもない	13
● 不満	2
● とても不満	0



4. 留学プログラムのうち、主に語学学校と大学での学修にどの程度満足していますか？

● とても満足	15
● 満足	35
● 満足でも不満でもない	17
● 不満	3
● とても不満	0



5. 留学プログラムのうち、インターンシップにどの程度満足していますか？

● とても満足	17
● 満足	23
● 満足でも不満でもない	16
● 不満	8
● とても不満	6



6. 留学プログラムのうち、オーストラリア滞在中の異文化体験にどの程度満足していますか？

とても満足	34
満足	29
満足でも不満でもない	7
不満	0
とても不満	0



7. 自分が目標とした学修成果を全体として達成したと思いますか？

非常に達成した	16
どちらかと言えば達成した	36
どちらとも言えない	9
どちらかと言えば達成していない	8
全く達成していない	1

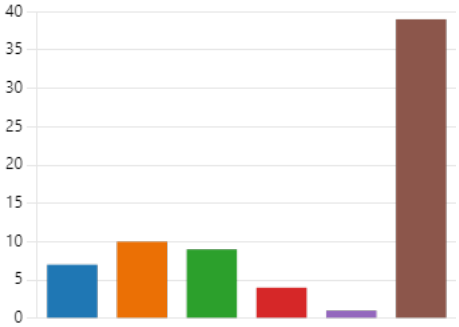
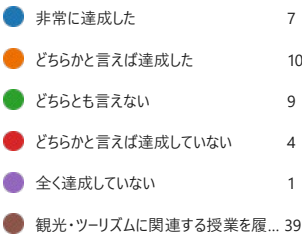


8. 自分が目標とした学修成果のうち、英語運用力についての目標を達成したと思いますか？

非常に達成した	13
どちらかと言えば達成した	35
どちらとも言えない	16
どちらかと言えば達成していない	5
全く達成していない	1



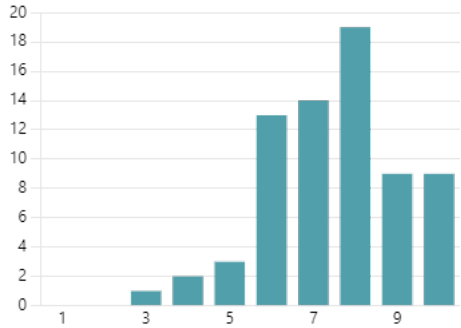
11. 自分が目標とした学修成果のうち、観光・ツーリズムの専門知識についての目標を達成したと思いますか? なお、観光・ツーリズムの授業を履修しなかった学生は「観光・ツーリズムに関連する授業を履修しなかった」を選択してください。



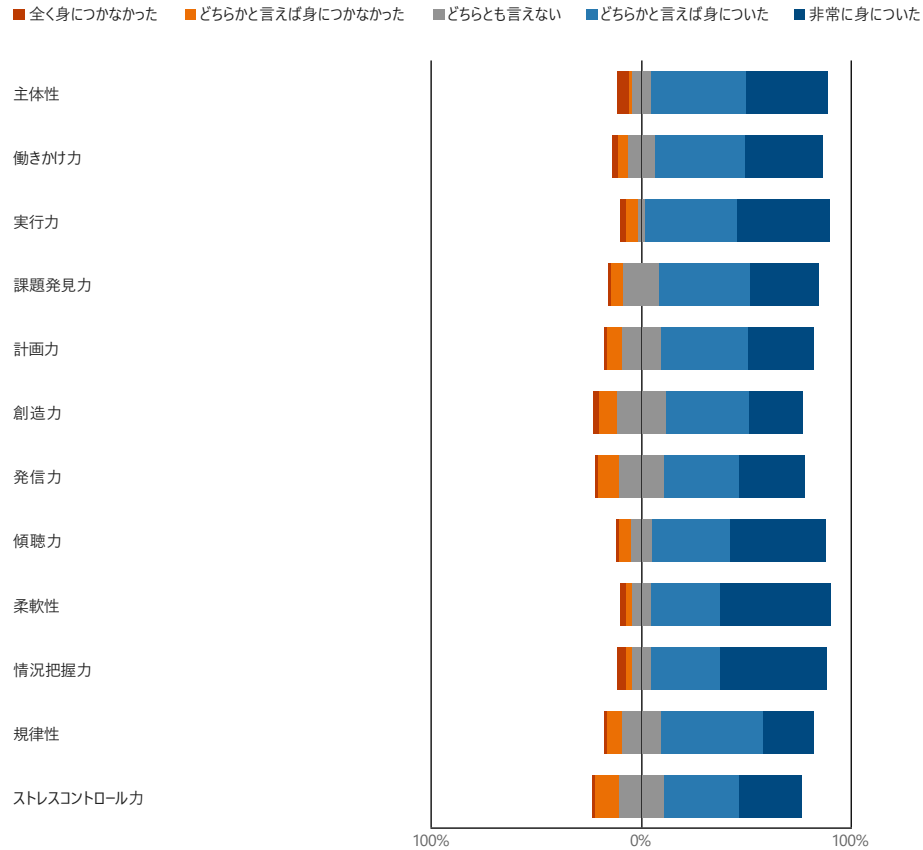
12. 玉川大学観光学部への入学を検討している後輩や知人に対して、この留学プログラムを理由に薦める可能性はどのくらいありますか？

7.50

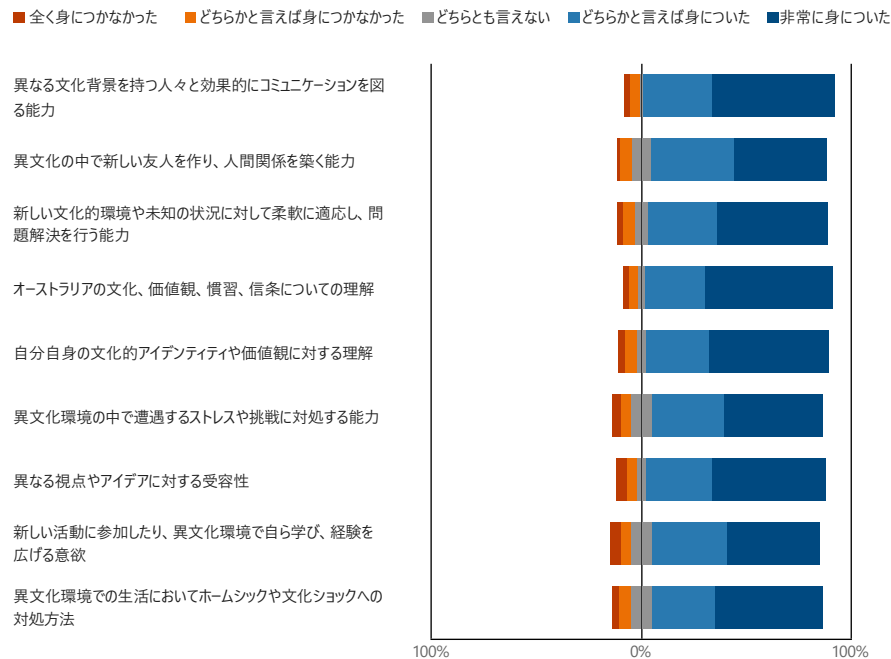
平均評価



13. 留学プログラム（特にインターンシップ）において社会人基礎力（12の能力要素）は身につきましたか。

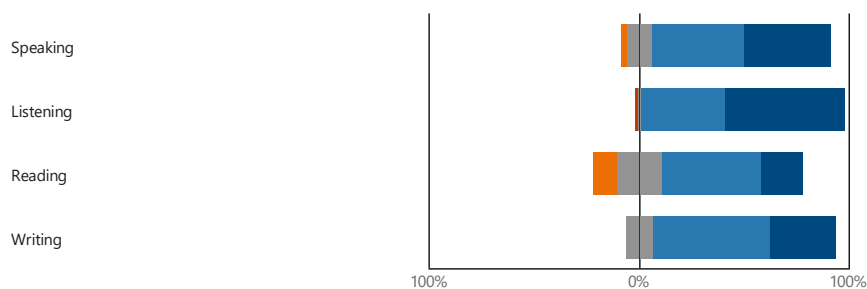


14. 留学プログラムにおいて異文化適応力は身につきましたか？



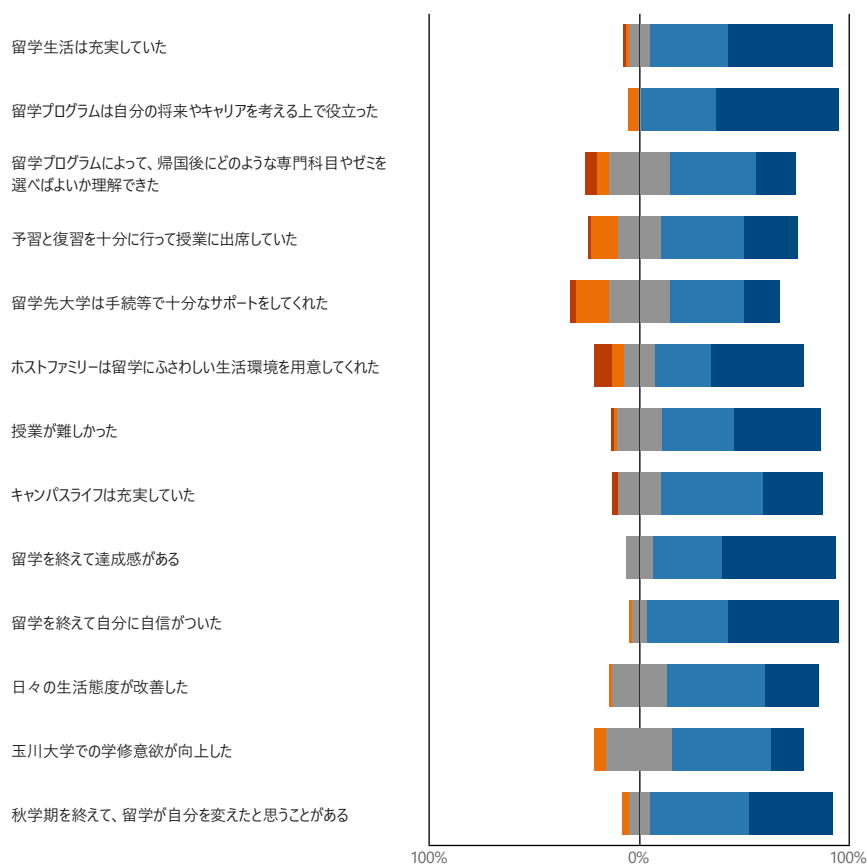
15. 留学プログラムにおいて英語運用力（4技能）は向上しましたか？

■ 全く向上しなかった ■ どちらかと言えば向上しなかった ■ どちらとも言えない ■ どちらかと言えば向上した ■ 非常に向上した



16. 次の文についてどの程度あてはまりますか？

■ まったくあてはまらない ■ ややあてはまらない ■ どちらでもない ■ ややあてはまる ■ 非常にあてはまる



17. 留学プログラムはあなたの期待に応えられましたか？

● はい 53
● いいえ 3
● わからない 14

